

生徒が本気になる 「好きな作品」を



大月市立大月東中学校教諭 宇野 誠

1 「選ぶ」と「自ら」の意味

新しい学習の場として設定された「好きな作品を選び、自ら取り組もう」という言葉を初めて目の前にしたとき、生徒たちの脳裏には何が浮かぶだろうか。「好きな作品は漫画や歌でもいいのかな。」「自ら取り組むって、何をすればいいのだろうか。」「何か作ったり、話し合ったりするのかな。」「みんなの前で発表するのかな。」「などが挙がるのだが、期待ばかりでなく戸惑いもおおひにある。これは、教師にとっても同じではないだろうか。

しかし、生徒たちが、どんな作品のどこに「こだわり、注目して読み、どんな課題を見つけ、それをどんな方法で追求し、そしてどんな方法で表現していくか、生徒自身が考え、選択をし、実現していくその過程は、まさに

過去の体験や知識・理解など集積されてきた情報の中から、「好きな作品」を選択する生徒も出てくるだろう。指導者が提示する素材に触発されてそれを学習材として選ぶ生徒も出てくるだろう。大好きな歌手の歌う歌詞の中から、学ぶための要素をすくいとる生徒もいるだろう。「この学習の一つの要は学習意欲の火を燃やし続けることのできる魅力に富んだ素材 学習材をどれだけ指導者が用意できるかである。」「好きな作品」はそれこそなんでもよいのである。もっと拡大して「好きな書物」でもいいかもしれない。

次に「自ら取り組もう」とは何か。まず指導者の支援を受けながらも、とりあえず「自分で」「何かの」学習を進めるといふことである。その「何かの」については何の制約もない。また「取り組み方」も何の指示もなく同じく制約がない。どういう方法で課題を追求し、どういつ形で表現活動として結実させるかは学習者に委ねられている。「一冊の本としてまとめる生徒」「ホームページを作成する生徒」「新聞を作る生徒」「絵本や画集を作る生徒」「ポスターセッションをしたい」としてポスターに学習成果をまとめる生徒「など、さまざまな形が生まれてくるはずだ。ただ忘れてはならないことは、課題追求の過程と具体的な表現活動の中で、国語科の目的であ

新学習指導要領がねらう「生きる力」の育成と重なる。それぞれの生徒の現状と力に応じた学習を確かに進めていく、その一部始終を目の当たりにでき、できるように支援を重ねていくことは指導者の醍醐味でもある。

さて、通常の学習でも、その「新しい主体的な学習の場」でも、学習する生徒たちにもっていてほしいのは課題意識である。一連の学習を常に支える課題意識は、興味や関心、そして、好奇心から生まれ、学びたい、わかりたいという意欲がその根底にある。したがって、課題意識をもたせるには、生徒たちの興味・関心をかき立てるところから始めなくてはならない。興味・関心をかき立てるためには、生徒たちの心の琴線にふれる素材が必要である。その素材に生徒たちが引き続き「こだわり、一定の学びを果たすとき、それは学習するに値する学習材となる。

それでは、この学習の場ではいったい何が学習材となりうるのか、もう一度「好きな作品を選び、自ら取り組もう」という言葉を吟味してみたい。まず「好きな作品を選ぶ」をどうとらえるか、教科書には「葉っぱのフリップ」「いのちの旅」「江戸の人々と浮世絵」「言葉の力」の三編が掲載されている。むろん、授業の中でこの三編は通読をし、必要に応じて解説をするが、生徒たちの選ぶ「好きな作品」はこの中でなくてもかまわないと考え

る言語の三つの機能（言語を通して物事を認識する。言語を通して思考する。言語を通して伝達する。）と、言語そのものについての認識を生徒に培う視点である。そのうえで、支援の方策として、いくつかの課題追求の方法と、それをどう表現活動としてまとめあげるかの具体的な道筋を指導者が準備することが必要である。

さて、以上の前提のもとに、考えられる限りどんな素材 学習材があるか、そしてどう表現活動として結実させることができるか、指導者の準備することとして私なりの手引きを示してみたい。

2 「好きな作品を選び、自ら取り組もう」の素材ー学習材

考えられる素材 学習材を掲げてみる。

「読書紹介の『帯』作り」

友達にお奨めの一冊を選んで、その本を手にとってもらえるような「帯」を作ってみる。

「百人一首の詩」

百人一首の和歌を読んで、その意味をこわさずに詩にしてみる。

「石川啄木の情景」

例えば、石川啄木など好きな歌人や俳人の短歌や俳句

を墨で書き、それぞれ思い描く情景を絵にして、一枚の作品にする。

『枕草子』『ツアーへようこそ』

例えば『枕草子』など、教室で学んだ古典作品の世界へ案内する観光ガイドブックを作成する。見所・おいしいもの・ファッションなど、調べないと書けない要素も入れてもよい。

「二年生の先生と仲間の好きな漢字大調査」

先生や友達の好きな漢字を調査して、どうしてそれが好きなのかも含めてリポートを作ってみる。表やグラフも活用する。

「私だけのお気に入り詩集」

自分の好きな詩をさまざまな「詩集」から選んで、それらを写して、カットとコメントを入れて自分だけの詩集を作る。

「雨の四季 風の四季 雲の四季……」

日本古来の季節の美しい言葉（四季のさまざまな事象を表す言葉）を探して項目別に分ける。使い方も記す。歳時記などを大いに利用したい。

『フランダースの犬』のネロへの手紙」

例えば『フランダースの犬』など幼いころ読んで心に残っている作品を読み返し、その主人公に手紙を書く。

はいいか悪いか」について、先生や生徒にインタビューしたり、アンケートをとったりして、架空の紙上討論会を書く。また、自分なりの考察をまとめる。

→ まで学習材として成立するだろうと思われる

素材と活動を書き出してみた。準備段階でさらに考えれば、これ以外にもかなりの学習材が見つかるはずである。さて、配当時間が減った中で、この教材にかけられる時間はそれまでにやりくりしても多くて八時間程度である。ねらいを把握し、追求すべき学習材と追求・表現方法を決定し、追求し発表に耐えつる「形」としてまとめていくのは、こういう作業に慣れていない生徒たちにとっては大いなることである。その認識の上で、八時間の授業としての流れをまとめてみた。

3 八時間の授業としての流れ

【第一時・第二時】この学習のねらいを知らせる。教科書教材三編を範読し、それぞれの要素、キーワードを解説する。取り組むべき「学習材」と、取り組むべき方法をワークシートを使わせながら、生徒それぞれに考えさせ、決定をさせる。発表方法・表現方法を検討させる。

【第三時】発表段階までのそれぞれの学習計画表を

幼いころの気持ちと今の気持ちを比べる。

『アンジュール』に言葉をつけてみよう」

字のない絵本（例えば『アンジュール』/BL出版/ガブリエル・バンサン作）に言葉をつけ、物語にしてみる。

『走れメロス』のその後」

教科書で読んだ作品のその後を作ってみる。主人公の性格を生かしてエピソードを作る。

「さだまさしの『主人公』の世界」

好きな歌手の歌詞を読み、そこから物語を作ってみる。

『ありんこ』の探求」

常日ごろ、疑問に思っていたことを多方面から調べて一枚の大きな紙にまとめる。「あり」なら、「ありの暮らした」「物語に登場するあり」「ん」「はどんな意味か」など。

『いのち』の名作リスト」

「いのち」や「平和」などに関わる作品を集め、その紹介リストを作る。

「私の朗読『春に』」

教科書で学んだ好きな詩や作品の一部を、読み方を変えて朗読し、録音する。どんな読み方をしたか示す。

「紙上討論会『携帯電話を持つのは是か否か』」

テーマを決めて、例えば「中学生が携帯電話を持つの

ワークシートを使いながら立てさせる。それを学級・班の中で発表させ、必要に応じて検討・修正させる。家庭学習で次時からの学習の準備をさせる。

【第四時・第五時・第六時】各自の学習計画に従って、学習を進めさせる。

【第七時】自分の学習成果を発表するための準備と練習をさせる。

【第八時】発表計画に従って、班の中で各自発表させる。各班の「イチオシ」の発表は学級全体の中で再度発表させる。

4 この学習を進める上で留意したいこと

内容は違つとはいえ、同様なことは「総合的な学習の時間」ではかなり行われている。これらの学習の共通項は「個に応じた学習」である。個別の興味・関心に基づいて、主体的・計画的にすべての生徒が学習を進めることができるように、生徒によっては学習初期の「学習材」を見つけたところから、かなりの支援をしなければならぬだろう。家庭学習・課外学習を含めたきめ細かい指導・支援計画とその実践がなによりも問われている。指導者にとっても工夫しながら、「自ら」取り組まなければならない教材なのである。